

2、3等級、交雑牛、乳牛中心というのは変わらぬと、和牛4、5等級は弱まった。
東京市場の卸売価格は86頭(8.2%増)と

4億円へ増加

京食肉市場株主総会

約88億4千万円(15.1%増)、小動豚は約60億6千万円(2.9%増)となった。

平成25年度からは豚生肉の集荷対策の一環として、東京都の協力のもと、豚部分肉加工工場をセ

ンタービル内に改修して設置することとして作業に着手した。

また、PPP交渉への参加合意やBSE検査月齢の変更など、業界を取り巻く厳しい環境変化に

対し適切で柔軟な対応を行い、一層効率的で健全な経営に努める。衛生・

小動物は19万2957頭(8.4%増)と

り、生体が18万135頭(9.7%増)、搬入枝肉は1万1607頭(6.4%減)とな

った。この結果大動物が

は1130頭(5.5%減)。子牛は650頭(21.1%減)、馬は986頭(8.2%増)と

は1130頭(5.5%減)。子牛は650頭(21.1%減)、馬は986頭(8.2%増)と

は1130頭(5.5%減)。子牛は650頭(21.1%減)、馬は986頭(8.2%増)と

は1130頭(5.5%減)。子牛は650頭(21.1%減)、馬は986頭(8.2%増)と

は1130頭(5.5%減)。子牛は650頭(21.1%減)、馬は986頭(8.2%増)と

は1130頭(5.5%減)。子牛は650頭(21.1%減)、馬は986頭(8.2%増)と



掛けて飼育

長・小動物担当狩谷哲夫▽取締役・特命事項担当 池亀秀美▽同・大動

新社長に山口氏昇格

横浜市市場株主総会行

横浜食肉市場(株)は6月28日、市場内で第54回定時株主総会を開き、上程議案を原案どおり承認した。任期満了に伴う役員改選では池田正男社長が

退任し、山口義行副社長を代表取締役役に選任した。山口氏は事業推進本部の部長長などを経て副社長を歴任した、同社の

いわば「生え抜き」

第54期(24年4月1日〜25年3月31日)の年間取扱高の実績では、牛枝

肉は取扱総数が前年比5.5%減の1万6065頭で、取扱金額は16.6

%増の8億4469万円。一方、豚枝肉は取扱

に、県外への配送も一部取り扱う。

取り扱う豚肉は国産3割、輸入物7割。国産で

は黒豚のほか、県産銘柄の「幻霜スペシャルポ

ーク」もみ豚などを販売する。国産は銘柄指

定も多だけにセット仕入れが中心。輸入物は、

土地柄もあって鉄板焼き

日に発令された厚労省令第77号により、牛海綿状脳症(BSE)の検査月

は当面継続される。

27億5418万円となつた。

新役員人事は次のとおり。

代表取締役社長 山口義行(新)▽専務取締役

国井重雄▽常務取締役

清水公和▽取締役 金子勝巳、重松幸正、黒沼

利三(横浜農協、新)、飯田秀夫▽監査役 佐々

木哲夫▽退任 池田正男、吉野仁。

交雑牛もブランド化

首都圏MP輸出協総会

昨年7月に設立された首都圏ミートパッカー輸出推進協議会(代表理事

阿部昌史・㈱ミートコンパニオン社長)の定例会が6月27日、東京都

立川市のミートコンパニオン会議室で開催され、

今年度はタイ、香港、マカオ向けを中心に積極

的に輸出事業を推進していくことを確認すると

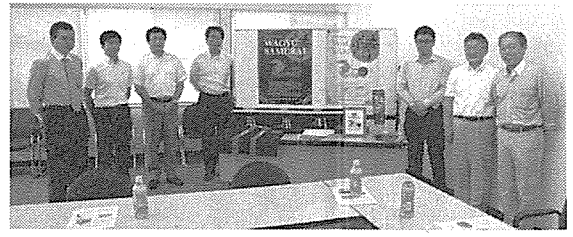
ともに、新たに東京市場の牛肉専門卸・㈱ミヤマ

イトの入会が承認された。

協議会は、首都圏・関東を中心とした地域の畜産関係者と食肉流通事業者を会員として構成さ

れ、国内産の優良な食肉

などを今後、期待される海外市場に向けて輸出推進し、日本産食肉ブランドの確立と認知度向上を目的に設立された。



新たにミヤマイトが入会した首都圏MP輸出協

食肉流通センター社長)▽理事 阿部徳次(㈱アグリス・ワン会長)、宮井敏夫(生産法人上里アーム代表)

長)、森島了(㈱ウエイ

る。また、応援隊結成に伴いホームページを新設し、1人でも多くの人に

応援隊のメンバーになつてもらうためにプレゼン

トキャンペーン(6月30日〜7月31日)を実施す

る。

MLAはジンギスカン

を多面的にトしていくとして

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

MLAがサポート

ジンギスカン応援隊

MLAがサポート

北海道を代表する食文化といっても過言ではないジンギスカンは、北海道遺産にも登録されるなど、北海道民にとつてのソウルフード。北海道出身の作家・エッセイスト千石涼太郎氏をはじめとするジンギスカンを愛してやまない北海道民によって、「北海道遺産ジンギスカン応援隊」が結成された。

そんなジンギスカン文化をさらにアピールするためのさまざまな応援隊の活動が、7〜9月のジンギスカン需要が高まる

玉野井氏2日に死去

神戸中畜社長、玉商会長



神戸中畜社長、玉商会長の玉野井進(たまの)氏は、かねてから病氣療養中のごり、7月2日午前9時37分に死去した。66歳。通夜は7月3日午後7時から、葬儀・告別式は4日午前11時から、神戸市兵庫区のベルコシティホール神戸でしめやかな中

も盛大に執り行われ、玉野井進(たまの)氏は、かねてから病氣療養中のごり、7月2日午前9時37分に死去した。66歳。通夜は7月3日午後7時から、葬儀・告別式は4日午前11時から、神戸市兵庫区のベルコシティホール神戸でしめやかな中

も盛大に執り行われ、玉野井進(たまの)氏は、かねてから病氣療養中のごり、7月2日午前9時37分に死去した。66歳。通夜は7月3日午後7時から、葬儀・告別式は4日午前11時から、神戸市兵庫区のベルコシティホール神戸でしめやかな中

も盛大に執り行われ、玉野井進(たまの)氏は、かねてから病氣療養中のごり、7月2日午前9時37分に死去した。66歳。通夜は7月3日午後7時から、葬儀・告別式は4日午前11時から、神戸市兵庫区のベルコシティホール神戸でしめやかな中

も盛大に執り行われ、玉野井進(たまの)氏は、かねてから病氣療養中のごり、7月2日午前9時37分に死去した。66歳。通夜は7月3日午後7時から、葬儀・告別式は4日午前11時から、神戸市兵庫区のベルコシティホール神戸でしめやかな中

も盛大に執り行われ、玉野井進(たまの)氏は、かねてから病氣療養中のごり、7月2日午前9時37分に死去した。66歳。通夜は7月3日午後7時から、葬儀・告別式は4日午前11時から、神戸市兵庫区のベルコシティホール神戸でしめやかな中

も盛大に執り行われ、玉野井進(たまの)氏は、かねてから病氣療養中のごり、7月2日午前9時37分に死去した。66歳。通夜は7月3日午後7時から、葬儀・告別式は4日午前11時から、神戸市兵庫区のベルコシティホール神戸でしめやかな中